

ID No.	2007
研究課題名	IL-13R α 2 を標的とした膵臓癌転移抑制と生命予後の延長
研究代表者	藤澤 聡郎 (東京医療保健大学・講師)
研究組織 受入教員 研究分担者	加藤 直也 (東京大学医科学研究所・准教授) 松橋 信行 (N T T 東日本関東病院・部長)
研究報告 平成28年度は健康食品に含まれるポリフェノールに着目し、HATI活性を示す3種類のポリフェノール、緑茶Epigallocatechin gallate、クミンcurcumin、赤ワイン resveratrolを膵臓癌細胞に投与しIL-13Rα2の発現低下、浸潤転移の抑制効果を検討した。その結果、上記3種類のポリフェノールのいずれも膵臓癌細胞におけるIL-13Rα2の発現抑制効果を示した。中でも緑茶に含まれるEpigallocatechin gallateがもっとも強くIL-13Rα2の発現を抑制した。 そこでEpigallocatechin gallateを中心に膵臓癌細胞に対する浸潤、転移抑制の検討を行なった。 まず<i>In vitro</i>で解析を行なったが、IL-13Rα2を発現する2種類の膵臓癌細胞においてMatrix metalloproteinaseの発現を抑制し、matrigelを用いたinvasion assayで浸潤の抑制効果を確認した。 次にマウスモデルを用いて<i>in vivo</i>での効果を検討した。まだ少数でのパイロット試験の段階であるが、モデルマウスに対してEpigallocatechin gallateを投与することにより宿主の生存期間を延長した。しかしEpigallocatechin gallate投与により食餌量が減り、体重が減少する傾向が見られた。 今後、相当数を用いて、<i>in vivo</i>の実験を行い腫瘍の転移抑制効果の検証、副作用の検討を行なっていく予定である。	